

地球の裏側で復興に向かう人たちに ココロはつながっていく

はるかな友に心寄せて 日本 - チリ交流コンサート

2010.2.27 チリ大地震 / 2011.3.11 東日本大震災
災禍に見舞われた2つの国、2つの町。

志津川高校の生徒たちの詩、はるかな友を思うメッセージから
交流は始まりました。

はるかな国・チリの高校生たちのメッセージを歌にして
ケコ・ユンゲさんが南三陸町に届けにやって来ます。

大災害からの復興途上の2つの町が
音楽を通して心寄せ合うコンサート。

ぜひ、ご参加ください。

コンスティトゥション - チリ
Constitución Chile



南三陸町 - 日本
Minamisanriku Japan



日時: **3月12日 | 火 |**
開場 17:30 開演 18:00
場所: **南三陸町総合体育館
文化交流ホール**

入場
無料

■チリ大地震とコンスティトゥション

2010年2月27日未明、チリでM8.8の地震が発生、525人が犠牲となりました。首都サンチャゴを含むチリ全土で37万戸の家屋が被災。コンスティトゥションはサンチャゴの南西340kmにある太平洋に面する人口4万6千人の漁業、パルプ・製紙業、リゾートの町です。この町では、約4分間続いた地震と、その後の津波（推定15m）により104人が犠牲になったのです。

地震当日は夏休みの最後に当たり、花火大会が予定されていました。市内を流れるマウレ川の中州（写真左上）には、前夜から多数の市民が場所取りのため集まっており、地震発生後、中洲に取り残された市民が津波の犠牲となりました。しかし、同市では2004年スマトラ沖地震以降、避難訓練を定期的に行っていたため、地震で消防署が倒壊し、深夜でかつ津波警報サイレンは作動しなかったものの、住民の自発的な避難により、人的被害は比較的少なかったといわれています。

主催 | 国際交流基金

在チリ日本国大使館
「挑戦、たちあがろうチリ」

協力 | 南三陸町

南三陸町国際交流協会
宮城県志津川高等学校
有限会社 DAHA Planning Work
仙台市民交響楽団
トヨタ自動車株式会社
トヨタ・子どもとアーティストの出会い仙台・宮城実行委員会
南三陸ホテル観洋

ENVISI

公益財団法人福武財団

株式会社メディア・ゲート・ジャパン（以上、日本側）

コンスティトゥション市

ガブリエラ・ミストラル校

チリ軍警察

チリ軍警察オーケストラ

Cabanas Playa El Cable（以上、チリ側）

後援 | 駐日チリ共和国大使館

お問い合わせ | 国際交流基金 文化事業部 米州チーム

担当: 松本・石井 TEL 03-5369-6061

「はるかな友に心寄せて」

2012 年秋、宮城県志津川高校 2 年 4 組のみなさんが、東日本大震災からこれまでの自分たちの生活を振り返り、クラス全員で言葉を出し合いながら、一編の長い詩を創りました。東日本大震災の約 1 年前、2010 年 2 月 27 日、地球の裏側のチリを大地震が襲いました。志津川高校の生徒たちは、この詩に海の向こうで被災した同世代の仲間へのメッセージを込め、推定 15 メートルもの大津波に襲われたコンステイトゥション市のガブリエラ・ミストラル校 3 年 B 組に送ったのです。チリからは震災の体験を記した物語が届きました。

志津川高校の生徒たちがワークショップを通じて紡ぎ出したメロディーがもとになって、彼らの詩が歌になりました。チリの生徒たちの作品は国民的な歌手、ケコ・ユングさんの手で歌になりました。

両国の歌には、はるかな国で同じ体験をした友に寄せる励ましと優しさがあふれています。

この太平洋を越えた友情の讃歌を、南三陸町のみなさまにお聴きいただくコンサートを開催します。

チリからは国民的なシンガーソングライターのケコ・ユングさんがやってきました。

日本の民謡やチリ国民が愛する歌の数々も楽しみながら、はるかな国・チリで復興に向かってがんばっておられる人たちに心寄せるひとときをごいっしょに過ごしたいと思います。

多くのみなさまのお越しをお待ちしています。



ガブリエラ・ミストラル校 3 年 B 組ワークショップ



志津川高校 2 年 4 組ワークショップ



はるかな友へ

宮城県志津川高校 2 年 4 組の
38 名が創作した詩より

今は暗闇の道
でもきつといつか光は差し込む
きつといつか心の底から
笑える時が来る

つらいけど
ひまわりのように
空にまっすぐ伸びていこう
上を向いて歩いて行こう
一輪の花に
ひとつひとつの花びらがあるように
私たちはひとりじゃない
一緒に未来を信じて歩いて行こう

ひとりじゃないよ
ぼくたちはつながっている
支え合って一歩ずつ
進んで行こう
世界はつながっている

がんばった分だけ
楽しくなれる
転んだ分だけ
強くなれる

やっぱり海がきれい이다
ずっと忘れない
一緒に歩いたこと
一緒に笑ったこと

一生懸命生きていれば
必ず光は見えるもの
今ある生命を大切に
We never give up!

■ 出演者



ケコ・ユング Keko Yunge

1980 年代から活躍するチリの国民的なシンガーソングライター。現在は音楽家としての第一線からは退き、音楽を通じた社会活動に力を入れている。NPO「挑戦、たちあがろうチリ」文化部長として活動。チリ大地震の直後、祖国チリと祖国の同胞に捧げる曲を作曲。これが「挑戦、たちあがろうチリ」のテーマソングとなった。ケコ・ユング氏は「ドレミ・プロジェクト」（貧困地区の学校に楽器を寄贈し、音楽教育を支援）、環境保護に関する啓蒙コンサート「青い地球。君が生きているなら、僕も生きている」等を展開している。今回は大津波の被災地コンステイトゥションにあるガブリエラ・ミストラル校の 3 年 B 組の生徒たちが書いた物語から歌を作り、南三陸町にメッセンジャーとして届けてくれる。エクトル「ティト」ペソア（ギター）、ローラ・プライヤー（ヴァイオリン）のふたりとともに来町。



佐藤 正隆 Masataka Sato

1973 年、宮城県生まれ。ギタリスト。3 歳から両親にギターを習う。1988 年、第 1 回仙台国際ギターフェスティバル、ジュニアギターコンクールで優勝、仙台市長賞を受賞。2000 年以降、キューバ、日本、ドイツの国際ギターフェスティバルに参加、オスカー・ギリアなど世界的なギタリストのクラスを受講。2003 年以降、東北地方を中心にコンサート活動を開始。2007 年、自らプロデュースした室内楽シリーズ「Guitar+」を開始。クラシックに留まらず、幅広いジャンルの音楽家と共演。若手ギタリストとして高い評価を得て、注目を集めている。仙台ギター教室を主宰する傍ら、宮城県内の大学や高校、中学校で精力的にギター指導に当たっている。東日本大震災後、現地で行われている追悼集会、追悼式にて演奏を行ってきた。「はるかな友に心寄せて」ワークショップで、生徒たちが紡ぎ出したメロディーから、曲を作った。



法笙組 Hoshogumi

福島県須賀川市の民謡家 小湊法笙（民謡小湊流 2 代目家元）とその一家、美鶴（妻）、美和（長女）、昭尚（長男）をメンバーとする邦楽 & 民謡 4 人ユニット。1996 年、NHK 六夜連続スーパーコンサート『縄文回廊』を機に結成された。民謡家、邦楽家としての各自の活動のほか、民謡をベースにアジアの音楽、ジャズ等とのコラボレーションにも積極的に取り組んでいる。2012 年 7 月、宮城県仙台市で行われた東日本大震災復興イベント『東北

六魂祭』に出演し、大きな反響を呼んだ。日本の音楽文化をチリにて披露すべく、「はるかな友に心寄せて」ワークショップで生徒が見つけた詩の一部を、邦楽に編曲した。